

令和 4 年度 茨城県立藤代紫水高等学校 自己評価表

目指す 学校像	活力があり、生徒も教職員もともに幸せで楽しい学校 ・ 知・徳・体が調和した豊かな人間性を培い、民主的な社会に貢献し得る人間の育成を目指す学校 ・ 地域に貢献し、社会から信頼される生徒を育むために、一人一人の生徒に誠実に向き合う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【昨年度の成果】 ・ ICT を効果的に活用することにより、生徒の学習理解を幅広くサポートできた。本校における「深い学び」を具現化し、授業改善を図ることができた。 ・ 本校の教育活動を保護者や地域の方々に丁寧に説明し、その目的と成果を十分理解していただき、信頼される学校づくりができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底したことにより、学校行事や部活動がうまく運営でき、本校の特色を示すことができた。	1 豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実	・ 面談等を通じて、生徒一人一人の個性や特性を十分に理解する。生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。 ・ 挨拶指導を推進し、他者を思いやる意識の育成を図る。 ・ 「道徳」や「道徳プラス」の授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。 ・ 教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。 ・ 安全と清潔を心掛け、快適な学習環境を整える。	A
	2 個に応じた教育の推進と確かな学力の定着	・ 創意工夫を生かした指導による基礎的・基本的知識及び技能の習得を図る。 ・ 新学習指導要領で目指す資質・能力を育むため、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を一層促進する。 ・ ICT を活用した主体的な学びを確立する。 ・ 学習意欲を高め、家庭学習等を促進する指導の工夫・改善を図る。 ・ 聞く力、読む力及び文章作成力を養成する。討論や発表を通じて、表現する力を養成する。 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応の促進を図る。	A

別紙様式 2 (高)

【今年度の課題】 - 生徒面談を充実させ、生徒一人一人の個性や特性を十分に理解し、豊かな心を育む教育を推進する。 - I C T を積極的に活用した授業を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。また、I C T を効果的に活用し、探究を軸とした学びのスタイル改革を推進する。 - 学校行事や部活動を充実させ、生徒が主体的に活動できる環境づくりに努め、生徒の自己有用感を高める。 - 学校WE B ページを充実させ、本校の教育活動を保護者や地域の方々に積極的に発信し、その目的と成果を十分に理解していただき、信頼される学校づくりに取り組む。 - 部活動指導員やスクールカウンセラー等の外部人材を積極的に活用し、カリキュラム・マネジメントの充実に努め、教職員の働き方改革に取り組む。	3 探究を軸とした学びのスタイル改革と I C T 教育の推進	- 生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを構築する。 - 協働学習・「個別最適な学び」・「協働的・探究的な学び」・反転学習等、I C T を活用した教育活動を推進する。 - 学習アプリの活用を促進する。 - 異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。	A
	4 多様な進路希望に対応したキャリアデザインの形成	- 生徒一人一人の進路意識を啓発し、自らの意思と責任で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図ることで、生徒の自己実現を支援する。 - キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進し、種々の分野で社会人として活躍・貢献できる力を育む。 - ホームルーム等において、キャリア・パスポートの積極的な活用と充実を図る。	A
	5 学校行事や部活動、ボランティア活動等の体験的活動の充実	- 学校行事等を充実させ、生徒が主体的に活動できる環境づくりに努めるとともに、それらを通して生徒間の友人・仲間づくりを支援する。 - 教職員や部活動指導員・外部指導者等の支援のもと、部活動の充実を図るための取組を推進する。 - 生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。 - ボランティア活動等の社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。	A

別紙様式 2 (高)

		6 開かれた学校づくりの推進	・オンラインも含む学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。 ・学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。 ・PTAや地域との連携を図り、学校理解を深める。	A
		7 働き方改革の推進と職場環境の改善	・留守番電話の導入や定時退勤日・完全退勤時間等を設定し、超過勤務時間の縮減に努める。 ・時差出勤制度を積極的に活用する。 ・部活動運営方針の徹底を図る。 ・教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	B
		8 コンプライアンスの遵守	・厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ・教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。 ・教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	・知・徳・体が調和した豊かな人間性をもち、民主的な社会に貢献し得る人財の育成 ・地域に貢献し社会から信頼される人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	・生徒の幅広い学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組むとともに、自分の進路実現に向け努力する生徒		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 学習意欲の向上	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の導入を進め、指導方針の更なる改善を図る。	B	B	・ I C Tを活用した授業実践例等を研究し、授業改善を図る。 ・ 観点別評価の理解を徹底し、教育活動の質をより向上させる。
		・ 授業時間を確保し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。	B		
		・ I C T活用による教育活動を促進し、効果的な授業を実践する。	B		
	2 校内研修の充実	・ 新教育課程実施による観点別評価や I C T利用、発達障害等、学校や社会の課題に即した研修会を充実させる。	A		
		・ 学校説明会の更なる充実を図り、本校の特色や魅力を積極的に P R する。	A		
	3 広報活動の充実	・ 進学フェアへの参加、中学校訪問の実施を通して、最新の情報を提供する。	B		
		・ 学校行事等をホームページに掲載し、更なる情報を提供する。	A		
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立	・ 学校生活の中で、あいさつ・礼儀作法・遅刻防止等の基本的生活習慣を身につけさせる。また、正しい制服の着用および容姿を整えさせる。	B	B	・ 原点にかえり、基本的生活習慣の確立の強化を図る。 ・ S Cや S S Wを有効に活用し、チーム学校として生徒支援を強化する。
		・ あいさつ運動を推進し、思いやりの意識や社会性を身につけさせる。	A		
		・ 遅刻 0 チャレンジマッチ週間および服装指導強化週間を設け、自己指導力の育成を図る。	A		
		・ 授業・集会等に臨む姿勢を丁寧な指導し、社会の一員としての自覚と責任の育成を図る。	A		
	2 自己指導能力の育成と問題行動の未然防止	・ 日々の生活での指導はもちろん、学年集会等で、定期的に正しい制服の着こなし方や服装容儀についてのセミナーを開催し、社会生活における服装容儀の大切さを理解させる。	A		
		・ 休み時間等の校内巡回指導を通して、生徒の活動の様子を把握し、問題行動の未然防止を図る。	B		
		・ 考査期間中の下校指導により、下校状況の把握と問題行動の未然防止を図る。	A		
		・ 自転車の鍵の二重化や個人の私物の管理を呼びかけ、盗難を防止する。	B		
	3 健康教育・生命尊重教育の重視	・ 保健厚生部と連携をはかり、生徒の心のケアと教育相談を充実させる。	A		
		・ 喫煙や薬物乱用防止講話を実施し、喫煙や薬物使用を防止する。	A		
	4 交通安全・情報教育の推進	・ 自転車の安全点検を行い、事故を防止する。	A		
		・ 原付免許取得者・バイク通学者に講習会を実施し、交通安全についての知識を深めるとともに、事故防止を図る。保護者説明会により理解と協力を得る。	B		
	5 いじめの未然防止・早期発見・早期解消	・ 生徒の自己指導力・自己有用感・規範意識を高め、いじめの未然防止を図る。	A		
		・ 保護者・生徒が学校に相談できる関係の構築と、複数の相談窓口を周知し、いじめの早期発見を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

生徒指導部		・適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをして、いじめの早期解消を図る。	A		
		・保護者・地域・警察等の関係機関との連携を強化し、学校外でのいじめに適切に対処する。	A		
		・いじめに関する教職員研修を充実させ、いじめの対応方法の共通理解を図る。	A		
特別活動	1 生徒会活動全般における生徒自身による主体的・自律的活動スタイルの確立	・生徒会が主催する学校行事について、生徒会が中心となって計画・立案する。	B	B	・Z o o mによる全校集会や壮行会等を定着させることができた。次年度はウィズコロナを意識し、全校での学校行事の実施を検討する。 ・体育祭や野球応援は学年開催となったが、次年度は全学年での実施を検討する。 ・工夫することにより、制限なしでの文化祭の一般公開の実施を検討する。
		・体育祭・文化祭・野球応援においては、実行委員会を中心に企画・運営する。	B		
		・委員会活動を活発にするため、定期的に委員会を召集し、話し合いを行う。	B		
		・各学校の生徒会と連絡し合い、コロナ禍でも行える行事を増やす。	A		
		・全校集会や壮行会等ではZ o o m等を活用し、学校全体が参加できるようにする。	A		
	2 部活動のさらなる活性化	・年度初めに、1年生を対象とした部活動紹介及び各部毎の部集会を実施する。	A		
		・県外大会出場の際には、生徒会・応援委員を中心に部集会を実施する。	B		
		・中学生説明会等で、本校の活動のPRを積極的に行う。	B		
		・野球応援を通して各部活動が協力し、一致団結を図る。	B		
		・各部活動の結果を掲示板等で報告し、励まし合う。	B		
	3 キャリア・パスポートの積極的な活用	・各ホームルームにおいて振り返りを行い、現在の生徒の力を確認した上で、今後に向け必要な事を考える時間を設ける。	B		
		・今後の生徒の進路を意識し、生徒が将来の姿をイメージ出来るような資料を提示し、書きやすい工夫をする。	B		
	4 地域住民に愛される「地域とともにある学校」づくり	・保護者・学校評議員・地域住民等に、積極的に生徒会活動を公開する。	B		
		・生徒会を中心に、学校付近の清掃活動等のボランティアを積極的に行う。	B		
		・各部活動においてもこれまで通り、学校付近の清掃活動を行う。	B		
進路指導部	1 各学年・教科・校務分掌・部活動・保護者との連携による生徒一人一人の進路希望の実現	・各学年の進路行事や校内外の活動を通して、早期から高い進路意識を育成する。	A	A	・サポートティーチャーについて、筑波大学学生対象の説明会を伊奈高校と共催し、4名登録することができたことは収穫である。しかし、日程が合わず交流が実現しなかったので、次年度への課題とする。
		・行事の振り返りや面談等を重ね、自己の可能性や適性を鑑みて進路選択を醸成する。	A		
		・大学・看護医療系・公務員志望者に対し、模擬試験受験の環境をととのえる。	A		
		・進路実現のための学力向上を目指し、各教科から資格検定等の受験を促し、支援する。	A		
		・学校生活で蓄積した知識や経験を活かし、個々にとって最適な進路を実現する。	A		

別紙様式 2 (高)

進路指導部	2 個々に適した進路を実現するためのキャリア教育を充実	・オープンキャンパス・高大連携講座・本校主催の「1日1大学説明会」等への参加によって情報を収集させ、学問や職業への興味・関心を喚起する。	A		
		・大学院生等のサポートティーチャーと交流し、学力と知的好奇心の向上を目指す。	B		
		・最新の進路情報を提供し、現状に即した進路活動ができるよう支援する。	A		
		・体験的活動やボランティア、インターンシップ等の機会を紹介し、主体的に多様な人々との協働を推進する。	A		
		・本校主催の「公務員講座」・「医療教養講座」等を通して、職業観や社会貢献について意識させる。	A		
		・「卒業生合格体験発表会」を実施し、多様な進路について認識させ、進路実現に生かす。	B		
	3 特性を生かした選抜方法による受験を促し、確実な志望校合格に繋げることによる進学率の向上	・3学年と連携し、各受験生徒の選抜方法に応じた受験支援を、学校全体で実施する。	A		
		・進路だよりや進路の手引き等で、進路選択のための情報を発信する。	A		
		・受験生徒が、各自の最善の状態で試験本番に臨めるよう、支援する。	A		
図書部	1 落ち着いた学校生活の場としての図書館の充実	・新聞・雑誌・図書の管理・整頓・保管を行い、利用上の便宜を図る。	A	A	・授業利用を行いやすくするために、W i F i 環境を整える。 ・「朝の読書週間」の継続・定着を図り、本に親しむ機会を多くする。
		・生徒・教員にリクエストを募り、読みたい本・読ませたい本を揃える。	A		
		・授業・学習活動を行いやすいように、図書館内の環境を整える。	B		
	2 探究を軸にした自己の可能性を引き出す機会の一翼としての読書普及の推奨	・進路関係利用に必要な本の情報を収集する。	A		
		・秋に「朝の読書週間」を実施して、読書に親しむ機会を作る。 ・図書委員による「図書館日和」の発行や研修活動を通して、読書の楽しさを広める。	A		
保健厚生部	1 自己健康管理意識の育成	・手洗い、黙食の呼びかけ巡視を行う。	B	A	・教育相談の円滑な運営については、滞りなく進めることができた。コロナ対応の手洗いや教室換気等は、次年度更に徹底する。 ・環境美化意識の育成ではゴミの分別が徹底されておらず、次年度への課題とする。
		・トイレ・手洗い場のシャボネット管理等、保健厚生委員会の仕事と位置づけ、活動を活性化する。	A		
	2 環境美化意識の育成	・校内外クリーン作戦等の環境美化委員会活動を通して、環境美化意識を高める。	B		
		・大掃除・ワックスがけ等を通して、環境美化意識を高める。	A		
	3 防災意識の育成	・年2回の避難訓練を通して、防災意識を高める。	A		
		・日頃から出火の防止に努め、消火器具等防火用品を準備しておく。また、家具類の転倒防止や窓ガラス等の落下防止を図る。	A		
	4 教育相談の円滑な運営	・生徒ひとりひとりが、安心・安全な学校生活を送れるよう、職員・保護者・学校カウンセラーとの情報を共有し、連携を密にする。	A		

別紙様式 2 (高)

		・学校外の関係機関との連携のための調整及び連絡を密にする。			
渉 外 部	1 P T A行事・事業計画の充 実	・ P T A総会や評議委員会等の行事を企画・運営する。	B	A	・ P T A総会の対面での実施を検討する。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、研修視察や保護者が参加しやすい研修会を計画する。
	2 広報委員会の運営と充実した活動	・ 広報委員会を数回開催し、会報の紙面構成及び内容を検討する。 ・ P T A会報を年 2 回発行し、学校の様子を保護者に伝える。	A A		
	3 研修委員会の運営と充実した活動	・ コロナ禍での P T A研修視察の内容を再検討する。 ・ 県南地区 P T A指導者研修会を運営する。	B A		
	4 各種大会への積極的参加	・ 県内の研修会に参加し、本校の活動に生かす。 ・ 関東高 P 連大会・全国高 P 連大会にオンラインで参加する。	A A		
	5 同窓会活動への協力	・ 創立 40 周年事業に積極的に参加する。 ・ 同窓会入会式を開催する。	A B		
情 報 部	1 G I G Aスクール事業に関する教員の資質能力向上	・ 校内研修を実施し、タブレットを使用した授業展開の普及を図る。 ・ 1 人 1 端末のタブレットを利用した授業を展開し、Google Classroom をはじめとした授業アプリケーションの効果的利用法を検証し、改善を図る。 ・ 教員の I C T機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A B A	A	・ 教員のタブレット利用の研修会を実施した。タブレットを利用した授業を実践する教員は増えたが、その使用方法に関しては改善の余地がある。 ・ 緊急情報メールの登録者について、学年によっては 8 割程度に留まったので、定期的に調査を行い、登録を促す。 ・ ホームページがリニューアルされ見やすくなったが、担当する教員の育成が課題である。
	2 G I G Aスクール事業に関する生徒個人アカウント・MAC アドレス等の管理	・ 生徒の教育情報ネットワーク・MS アカウント・学びポケットアカウントの年度更新処理・移動処理・変更処理等に、できるだけ俊敏に対応する。 ・ 新入生の MAC アドレスの及び、在校生の機種変更等に伴う MAC アドレスの変更処理を適切に行う。 ・ 生徒の I C T機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A A A		
	3 施設・備品等の管理	・ 校内のコンピュータとその関連機器および視聴覚機器を管理して、校務に支障が出ないように運用する。 ・ 校内無線ネットワークの維持管理・スムーズに利用できるネット環境整備を図る。	A A		
	4 緊急情報メールの管理	・ 緊急情報メールの送信依頼には、即時対応する。 ・ 定期的に緊急情報メールの登録者をチェックし、登録を促す。	A B		
	5 ホームページの管理	・ 更新依頼には速やかに対応し、最新の情報を表示する。 ・ 更新されていない情報等の更新を促し、必要のない情報は削除する。 ・ 閲覧者が見やすいホームページを維持するため、レイアウトを改善する。 ・ 情報倫理に配慮して、適正に管理する。	A A A A		
第 一 学 年	1 基本的生活習慣の確立	・ 服装や頭髮の指導基準を共通理解し、一貫性のある指導を行う。 ・ 服装指導強化週間での指導を徹底し、身だしなみを整えようとする姿勢を育む。 ・ 遅刻指導に力を入れ、遅刻の根本的な原因の解決を目指す。 ・ ホームルームや学年集会で自己の生活を振り返り、自己指導力の向上を図る。	A B B A	B	・ 大人に軸足を移すことを目標に、基本的生活習慣の確立を目指したが、遅刻者もあり、今後も継続して粘

別紙様式 2 (高)

第一学年	2 基礎学力の向上	・授業2分前着席を定着させ、集中して授業に臨む姿勢を身につけさせる。	A		り強い指導を実践する。 ・自己管理の重要性について引き続き指導する。 ・進路面では多くのガイダンスを実施できたが、進路希望が未定の生徒もあり、アプローチの工夫・改善を図る。 ・検定試験へ挑戦を躊躇する生徒が見られた。学年全体で挑戦しようという雰囲気作りをする。
		・丁寧で細やかな教科指導を行い、高校生としての基礎となる学力を身につけさせる。	B		
		・言語活動を取り入れた学習活動を行い、主体的に学ぼうとする姿勢を育む。	A		
		・定期考査や小テストにおける成績不振者へのフォローをし、誰ひとり取り残さない教科教育の実現を図る。	B		
	3 人間関係形成力の向上	・ホームルームや学校行事を通し、自己の役割を自覚させ、クラス内での連携を深める。	A		
		・個人面談や日常的な会話等を通じて、話を聞く態度や場に応じた受け答えができる能力を養う。	A		
		・部活動への積極的な参加を促し、部内の人間関係を通して自身の心身を豊かにする。	B		
	4 「道徳」の時間を通した健全な心と体の育成	・授業担当者や講話担当者の個性を活かし、幅広い視野で物事が考えられる能力を育成する。	B		
		・異年齢集団との交流や清掃奉仕活動を通じて、他人を思いやる心の涵養を目指す。	A		
	5 進路意識の向上	・進路ガイダンスを充実させ、自身の進路に多くの選択肢があることを知らせる。	A		
		・適性検査や学問研究等の進路活動を通し、自身の進路適性について考えさせる。	A		
		・基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	A		
		・検定試験への積極的な挑戦を促し、進路意識の高揚を図る。	B		
第二学年	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することでルーティーンを確立する。	B	B	・年間を通して生活習慣の確立を促したが、指導等を受けた生徒も見られ、指導の更なる改善を図る。 ・学習に関しては定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・進路関連の行事をいくつか実施することができた。第3学年での進路決定に向けて、各方面とも協力しながら引き続き様々なアプローチをする。
		・遅刻者数の減少を目指しながら、信頼関係の構築に繋げる。	B		
		・あいさつや礼儀等の基本的なマナーを身につける。	A		
	2 基礎学力の向上	・丁寧な授業や細やかな授業を通して、主体的に学ぶ意欲を引き出す。	A		
		・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着をはかる。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持たせながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦させる。	A		
	3 人間力の育成	・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・他者とのコミュニケーションを円滑に取れるよう、ホームルームや集会、探究の時間等で働きかけていく。生徒の”居場所づくり”の確立に向け、教員間の連携を密にする。	A		
		・いずれ母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つよう促す。	A		
		・”人”を大事にできる人間の育成を目指す。常に感謝の気持ちを忘れず、物事を前向きに捉えられるような取り組みを、道徳等を活用しながら行っていく。	A		

別紙様式2（高）

第二学年	4 進路実現を見据えた意識の向上	・生徒の特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標につなげられるようにする。	B		
		・思いや考えを言語化し、具現化できるよう、様々な企画を立案し、実践する。	B		
		・面接や小論文等、次年度の進路活動時に必要である内容について学習できる時間や教材を用意する。	A		
		・手帳等を活用しながら、自ら考え積極的に行動できるよう、先を見据えた計画を生徒自らに取り組ませる。	A		
第三学年	1 基本的生活習慣の確立	・服装や髪を整え、正しい態度で学校生活を送る姿勢を育てる。	A	A	・基本的生活習慣の確立をめざしたが、遅刻等をする生徒もいた。コロナ禍の影響は未だ続き、心身が不安定な生徒への支援が大きな課題である。 ・進路決定に向けて、生徒のニーズと適性に合わせた進路指導を行うことができた。次年度に引き継ぎ、改善を図る。 ・進路活動や探究活動等を通して、主体的に学習する態度の醸成や、自己発見に努めさせることができた。次年度に引き継ぎ、改善を図る。
		・礼儀や言葉遣い等、他者の立場や気持ちを考えた言動を意識させる。	A		
		・ホームルームや、学年集会の機会を利用して、集団の中での規範意識をもたせる。	A		
		・計画的に行動することを心がけさせ、遅刻や欠席の減少を目指す。	B		
	2 学校行事の充実	・学校行事に主体的・積極的に取り組みせ、他者を思いやる集団づくりを目指す。	A		
		・生徒の自主性を活かした企画・運営により、体育祭等の行事を行う。	A		
		・他者と協働し、最善を尽くす生徒を育成する。	A		
		・文化的行事が中止の場合には、代替の行事の実施を模索する。	A		
	3 主体的に学習する態度の定着	・授業2分前着席を通して、学習に主体的に取り組ませる。	B		
		・授業での学習内容をよく復習させ、課題の提出の徹底を図る。	A		
		・探究活動を通して、自己の在り方生き方を考えさせ、自分なりの「問い」を立てて情報収集・分析・発表する力を養う。	A		
	4 基礎学力の向上	・授業において、学習の目的を理解した上で、目標をもって学習に取り組ませる。	A		
		・生徒の実態に応じ、生徒との信頼関係に基づいた教科指導を実践する。	A		
		・放課後の課外への出席を促し、進路に向けた学力向上を目指す。	B		
		・大学進学者には、共通テストを受験させることにより、学習する態度を育成する。	A		
	5 進路を見据えた自己発見	・自身の進路を考えさせ、進路行事を通して、実現に向けて努力させる。	A		
		・外部模試や資格取得に積極的に挑戦し、進路意識の高揚を図る。	A		
		・個人面談や進路ガイダンスを通して、進路実現のための学習課題を明確にさせる。	A		
		・常に社会に関心を抱き、自主的に将来の進路を探究する姿勢を身につけさせる。	A		
国語	1 思考力・判断力・表現力の育成	・教材に応じて内容を要約させ、読解力・表現力を養成する。	A	A	・自分の意見等を発表する機会が少なく、効果的な言語活動を行えなかった。 ・漢字検定受験者数を増やせるように、生徒への声かけの徹底を図る。
		・プリント等を活用し、文章の内容の構成や展開に即して、的確に捉えさせる。	A		
		・自分の意見を発表する機会を増やし、積極的に自分の言葉で表現する力を養成する。	B		
		・発表を聞き自分の意見と照らし合わせて、さらに考えを深めさせる。	B		
	2 基礎学力の向上・家庭学習の定着	・月に2回の漢字小テストを実施し、達成感を味わう活動を行う。	A		
		・提出物の徹底を図り、家庭学習を定着させる。	A		

別紙様式 2 (高)

国語	3 資格取得の奨励	・漢字や文法等を繰り返し学習することで、基礎的な内容を定着させる。	A		
		・授業において漢字練習の機会を与える。	A		
		・2年次の一斉受験に向けて、1年次より漢字検定の受検に対する意識を持たせる。	B		
		・漢字検定の合格率向上のため、課外等の充実を図る。	A		
地理・歴史	1 一般教養として必要な知識や基礎・基本の定着	・担当者間の連絡を密にして、授業内容を精選し、現代史までの学習を目指す。	A	A	・知識の定着を図ることはできたが、言語活動の時間を十分に取ることができなかったため、改善を図る。 ・評価基準の改訂にともない、評価方法について見直す。
		・歴史科目においても、地図ワーク等を利用し、地理的感覚を養う。	A		
	2 民主主義の本質に関する理解の深化	・様々な時代・地域を学ぶ機会に、国家の役割を考えさせる。	B		
	3 現代の国際的諸問題と関連づけた理解の深化	・新聞やニュース等を活用し、最新の国際問題と関連づけた授業展開をする。	A		
・様々な時代や地域を学ぶ機会に、民族・文化の多様性を尊重する姿勢で臨み自らも世界の中の一員であることを意識させる。		B			
公民	1 一般教養として必要な知識・技能の習得	・授業では教科書と副教材に加え、新聞やニュース、ドキュメンタリー番組等を活用する。	A	A	・新課程への移行にともなう授業内容の精選及び確立を図る。 ・SDGsに関する学習時間の充実を目指し、それを関連付けた授業展開を図る。
	2 事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力の育成	・グループ作業や発表活動を通して思考・表現能力を養う。	A		
		・長期休業中の課題としてレポート作成を課し、資料活用能力を養う。	A		
		3 知識を実社会の理解に役立てた社会参画への姿勢の育成	・生徒にとって身近な事例を取り上げる。		
	・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する。		A		
数学	1 基礎学力の定着	・生徒の能力や実態を鑑みて、授業展開と教材の精選を図る。	A	A	・ICT機器を利用した授業が昨年度よりも増加して実践することができたが、更なる充実を図る。 ・新課程の教材研究や評価方法を見直す。
		・授業内で、各教科の内容と関連づけさせながら、基礎的な計算の練習を行う。	A		
	2 授業方法・内容の改善	・基礎的事項の理解と定着を図るため、教員相互の授業参観を行い、指導方法の工夫と改善を図る。	A		
		・生徒それぞれの進路を考慮した上で、授業内容を精査する。	B		
	3 学習習慣の定着	・学習習慣の確立のため、定期的にノートや問題集等を提出させ、適切に評価する。	A		
		・長期休業時の課題の内容を吟味し、テスト等で確認・評価することで定着させる。	B		
	4 数学的思考力の向上	・身近な事柄に関して、表やグラフ、数式等で表現し、数学的に考察し表現する力を養う。	A		
理科	1 化学的な自然観の育成	・化学の基礎・基本的な知識の習得を図り、物事を科学的に探究する能力と態度を育成するために、化学に関する演示実験・生徒実験を行う。	A	A	・ICT機器を積極的に利用した授業展開を図る。
		・個人の理解度に応じた指導内容を工夫し、より理解を深めるために、視聴覚材やICT機器を有効に活用する。	A		

別紙様式 2 (高)

理科	2 生物的な自然観の育成	・様々な動物・植物に興味を持たせるために、生物に関する身近な話題を数多く紹介する。	A	A	・演示実験や生徒実験を取り入れる。 ・生徒の基礎学力を向上させることを意識し、指導の改善を図る。
		・顕微鏡等を用いて、細胞の基本を理解させる。	B		
		・インターネットを活用し、適切な項目を検索して生徒に提示する。	A		
	3 物理的な自然観の育成	・自然現象を科学的に分析する営みを通して、事象を論理的に考察する力を養うとともに、物理学の雰囲気を感じとる。	B		
		・生徒のより深い理解を目指し、I C T機器を活用した授業を展開する。	A		
保健	1 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく能力の育成	・視聴覚教材を用いることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら健康・安全について理解を深められるようにする。	B	A	・視聴覚教材の使用方法について深く知り、授業に取り入れる。
		・ノートを毎学期末に提出させ、理解度を確認する。	A		
体育	1 各種運動の合理的な実践を通しての運動技能の向上	・球技（サッカー・ハンドボール・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・テニス・ソフトボール・卓球）、武道（柔道）、水泳、陸上競技（マラソン）、体づくりの様々な運動を行い、技能を高める。	A	A	・自ら課題を見つけ、課題克服のための計画を立て、実践していける授業作りをこころがける。 ・生徒一人一人の運動量を確保し、基礎体力の向上を図る。
	2 運動の楽しさや喜びの会得	・自らの体力・技能を知り、自らが課題をみつけ、課題解決のための学習計画を立てることができるようになる。	B		
	3 体力の向上および公正・協力・責任の態度の育成	・マラソン大会に向け、1ヶ月間程度、持久走を行うことにより、体力の向上を図る。	A		
		・準備運動・整理運動を徹底し、自らの体の調子に気づくことができるようにする。	A		
		・個々への役割を与え、公正・協力・責任等の態度を育てる。	A		
	4 生涯を通じて継続的に運動ができる資質・能力の育成	・活動場所・用具の点検を行うことで安全面の配慮ができるようにする。	A		
		・場の設定や器具・用具、ルールの工夫により学習効率を上げる。	A		
		・ノートを毎学期末に提出させ、理解度を確認する。	B		
音楽	1 幅広い音楽活動による生涯を通じて音楽を愛好する心の育成	・曲をじっくりと味わうことができるよう、ワークシートで鑑賞能力を高める。	A	A	・実技やグループワークを積極的に取り入れ、生徒の実態に応じた目標設定をすることで、生徒に主体的・協働的に表現活動に取り組ませる指導の充実を図る。 ・曲や映像を観て、生徒が感じたことを発表し、楽曲に対して批評する等、鑑賞に力を入れる。
		・歌唱・器楽・鑑賞・創作の分野について、幅広く学習実践する機会を設ける。	B		
	2 基本的な読譜力・表現力の育成	・曲の理解やアンサンブルの楽しさを通して、音楽を愛好する心を育てる。	A		
		・基本的な知識や技術を習得し、反復練習する機会を設ける。	A		
	3 音楽を伝統や文化、歴史的な側面から理解する資質・能力の向上	・表現及び鑑賞の領域において、ワークシートを使用し、曲の背景や作曲家の意図を理解し、感じ取る力を育む。	A		
		・多様な文化に触れる機会をもち、良さを味わう活動を行い、批評する力を獲得させる。	B		
	4 音楽活動を通して主体的・対話的に活動する力の育成	・音楽のグループワーク・演奏活動において、対話的・協働的な力を育む。	A		
		・個々の音楽経験や技能に応じた目標を設定させる。	A		
・個々の現状や目標に応じた教育活動を展開する。		A			
書道	1 書写能力の向上及び興味・関心の向上	・題材に応じ、補助資料を作成し、基礎的な用筆法の定着を図る。	A	A	・生徒の実態に応じて、個
		・生徒一人一人の個性や技能を考慮し、個別指導を徹底する。	B		

別紙様式 2 (高)

書道	2 書に親しみ愛好する心の育成及び表現能力の向上	・実用的な書に取り組ませ、生徒の書に対する興味関心を高める。	A		別指導の充実を図る。 ・鑑賞における効果的なグループ活動の在り方についても力を入れる。
		・3年次では、卒業制作として折状の作成をする。	A		
	3 鑑賞能力の向上	・題材ごとに相互批評をする機会を設ける。	A		
		・身近な書（石碑や本、新聞のタイトル等）を確認させる。	B		
英語	1 4技能の指導の充実	・効果的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業展開をする。	A	A	・英検が土曜実施となった影響もあり、受験者数が各級ともに減少傾向にある。今後も引き続き、英検対策課外への参加奨励を図るとともに、英検Can-doリストを意識した年間指導計画を作成する。
		・クラスルームイングリッシュを用いた授業を積極的に行い、ALTを積極的に活用する。	A		
		・英語科グランドデザインを基に、3年間を通して「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく育成する。	A		
	2 基礎学力向上及び学習の定着	・既習事項を繰り返し学習し、基礎・基本を確実に定着させる。	A		
		・小テストを定期的実施し、スモールステップで達成感を味わう活動を行う。	A		
		・提出物等の徹底を図り、家庭学習の習慣を身につけさせる。	A		
		・生徒の実態に合わせた授業展開と課題内容の工夫を図る。	A		
	3 資格取得の奨励	・英検受験の奨励と合格者の増加に向けた課外等の指導の充実を図る。	B		
家庭	1 基礎知識と技術の定着	・生徒個人の習熟度を把握し、きめ細やかな支援を日々心掛け、確かな知識と技術の習得を図る。授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かせるよう、授業以外においてもひとりひとりが活躍できる場を提供する。	A	A	・実習時間を確保する。
	2 安心して学べる環境づくり	・日々教材研究に努め、官公庁からのデータの活用等、正確かつ最新の情報を授業に取り入れられる。	A		
		・生徒一人一人が安心して学べる授業環境を構築する。様々な体験を通して、生徒達が得た「知力」「体力」「感性」を十分に使いこなせる場面を、授業において設定できるようにする。	A		
		・包丁や裁ちバサミ等実習道具の扱い方を十分理解させるとともに、安全管理を図る。	B		
	3 地域との連携	・学校家庭クラブ活動を通して、地域との連携を図る。	A		
情報	1 情報社会についての理解	・情報社会に潜む危険性を理解させる。	B	A	・プログラミングに必要な理論的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する。
		・情報社会のモラルを理解し、コンピュータを扱う上でのルールやマナーを理解させる。	B		
	2 コンピュータについての	・コンピュータの使用法を理解させる。	A		

別紙様式 2 (高)

	理解とその活用	・社会生活におけるコンピュータの利便性を理解し、活用できるようにする。	A		
	3 インターネットについての理解とその活用	・インターネットを安全に使う方法を理解させる。	A		
事務室	1 財務会計の適正な執行	・各種法令を遵守し、誤りのない会計業務を執行する。	A	A	・引き続き相互のチェック体制を維持し、財務会計の適正な執行に努める。 ・電気料金高騰により追加予算を待っての執行になり物品の購入が遅れたので、改善を図る。
		・互いの業務をチェックし合い、ミスや不正を未然に防ぐ。	A		
		・校内予算を作成し、計画的に物品を購入する。	B		
	2 安全安心な学校づくり	・校舎内外の施設設備の目視による点検を行う。	A		
		・不良箇所は速やかに修理修繕を行う。	A		
		・長期的な施設整備計画を立て、県への予算要求を行う。	A		

※評価基準： A：目標・方策等を十分に達成できた。
 B：目標・方策等をほぼ達成することができた。
 C：目標・方策等を達成することができなかった。